令和7年度 東久留米市立西中学校 学校経営方針

校長 小川 高弘

教育目標

賢く 優しく 逞しく

一年 自主

二年 自律

三年 自治

1 はじめに

中学校を卒業すると、生徒は、生活環境が一変し、新しい、広い社会へと出ていくことになります。「中学生」という立場に守られた生活から、先の見通しが難しい社会を生き抜くための準備期間が、3年間の中学校生活です。本校では、新しい社会を生き抜くために、「よき社会人」を育成して、卒業させることが中学校の役割の一つであると考えています。「よき社会人」とは、個人の夢や希望を追い求めつつ、社会に貢献する人のことです。中学校という集団生活を通して、個人の資質・能力を最大限に伸ばすことで、「よき社会人」の育成につなげていきます。

2 教育ビジョン

【目指す学校像】

- (1) 自治力のある集団、正義の通る集団としての学校
- (2) すべての生徒が心の居場所をもつ学校
- (3) 学習の基礎・基本を確実に身に付け、主体的に学ぶ力を培う学校
- (4) 学校・家庭・地域社会が共に協力をし、生徒を育てる学校

【目指す生徒像】

- (1) 知性のある「賢い生徒」
- (2) 思いやりのある「優しい生徒」
- (3) 心身共に健康な「逞しい生徒」

【目指す教師像】

- (1) 「よき社会人」の育成に尽力する教師
- (2) 本校の課題を理解しその解決のために組織の一員として努力する教師
- (3) 生徒理解力や授業力等の教師としての資質・能力の向上を常に目指す教師

3 教育目標達成のための基本方針

- (1) 人権尊重と健やかな心と体の育成
 - ア 個性を尊重し、自己肯定感・自己有用感を醸成する。

- イ 生命尊重・人権尊重の涵養に努める。
- ウ 情報モラル教育を推進するとともに、コミュニケーション能力の向上を目指す。
- エ 個に応じた指導・支援を充実させ、特性に応じた特別支援教育を推進する。

(2) 確かな学力の育成

- ア 対話や話し合い活動を活発に行い、到達目標を明確にした授業の実践を目指す。
- イ 適切な評価・評定を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びを推進する。
- ウ 個別最適な学びと協働的な学びの充実のために一人1台端末を活用する。

(3) 信頼される学校づくり

- ア 学校行事などへの参加を通して、役割と責任の精神を育み、社会性を育成する。
- イ 誰もが安心して学校生活を送ることができる学校を築こうとする態度を育てる。
- ウ 学校業務の見直しを図り、持続可能な指導体制を整備する。

4 今年度の具体的な教育活動

(1) 教科・特別の教科 道徳・総合的な学習の時間

ア 教科

- ① 毎時間の到達目標を明確にし、その達成度を生徒自らが授業の終わりに判断し、自己の学習の調整ができるように工夫する。
- ② 国、都、市の学力調査及びその他の実力テスト等を活用し、その結果や授業評価を分析・考察し、指導内容と指導方法の工夫・改善を図る。
- ③ 小テスト・ノートチェック・レポート等を活用して、学習のための形成的評価を充実させる。
- ④ 英語と数学における少人数指導の展開や放課後の学習指導や長期休業中の支援体制を整える。
- ⑤ 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を取り入れ、生徒が興味・関心に基づき自ら考える授業を実施する。
- ⑥ 対話や話し合い活動を取り入れ、自らの課題に気付く授業実践を行う。

イ 特別の教科 道徳

- ① 自立心や自律性を高めると共に、人間愛、人権尊重、生命尊重、公德心、公共心などの価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

ウ 総合的な学習の時間

- ① 「主題・探究・表現」という学習方法を通して自ら課題を設定し主体的に学習する力を育成する。
- ② 各教科で習得した各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を生かすとともに、探究的な地域学習「ミラくる（未来☆くるめ学習）」や体験的な活動を重視し、ねらいを明確にした指導を行う。

(2) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

(ア) 人権尊重と学習権を保証するために、一人一人の生徒が安心して生活できる学校をつくる。

- ① 基本的な生活習慣、規範意識、美化意識、自主的・自律的な態度をもった生徒を育むために、ルール、校則の見直しを生徒とともに進める。
- ② 生徒間の望ましい人間関係を育て、アンケートや面談、日頃の指導を通していじめのない学校を築く。
- ③ セーフティー教室などを通して、自らの安全を守るための力を養う。
- ④ 「学校いじめ防止基本方針」を全教職員が理解し、組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期解決を図る。重大事態の定義の確実な理解を徹底する。

(イ) 一人一人の生徒の人格を尊重し、心のふれあいを大切にした指導を行う。

- ① スクール・カウンセラーや登校支援巡回教員、学力パワーアップサポーターの活用や教育相談の充実を図り、不安を抱えている生徒へ適切な支援を行う。

(ウ) 健全育成を図る指導体制を築く。

- ① 保護者との協力を重視しつつ、地域社会及び関係諸機関との連携を図る。
- ② 全教職員の共通理解を深めた指導体制を充実させるために、情報交換・意見交流の場を定期的に設け情報の共有化を図る。
- ③ 不登校が心配される生徒や特別な支援を必要とする生徒に対して、「心の居場所づくり」「絆づくり」を意識し、関係諸機関等との連携を図り、「不登校0（ゼロ）」の学校を目指す。

イ 進路指導

(ア) 自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、キャリア教育の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を育む。

(イ) 明るい将来と自己の能力について考えさせるために、自己理解を深める取組を行う。

(ウ) 自己理解を深めさせるとともに、身近な人の職業調べや職場体験等を通して職業や進路に対する正しい知識の獲得を図る。

(3) 特別活動、その他

ア 特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事等）

(ア) 学級活動

- ① 教師と生徒、生徒相互の心のふれあいを深め、信頼関係を確立する。
- ② 集団でのリーダーの育成を通して、フォロワーの育成にも努め、役割と責任を明確にした指導を実践し、学級集団の質の向上に努める。
- ③ 学級活動、生徒会活動に積極的に参加、協力することを通して、自主性・自律性を育てる。

(イ) 生徒会活動

- ① 生徒会の議決に向けた学級と中央委員会相互の話し合い活動の取り組みを行うとともに、民主的な手続きの獲得に向けた取組の充実を行う。
- ② 地域に生きる社会人として、地域のボランティア活動に参加する機会を設ける。
- ③ 委員会活動等をとおして、自分の学校の環境を自らが改善する意識をもたせる。

(ウ) 学校行事

- ① 望ましい集団活動を通して、連帯感・所属感を味わせるとともに、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ② 生徒自らが学校行事の企画・運営に参加できる場면을意図的に設定し、リーダー・フォロワーの育成、学級組織・学年組織の場면을充実させる。
- ③ 日頃の学級指導の成果を生かして行事に取り組みせ、さらに、行事の成果を学級指導に生かせるように工夫する。

イ 部活動

学校教育活動の一環としてとらえ、スポーツ・文化等、同じ興味と関心をもつ生徒が、自発的・自主的に活動を行い、より高い水準の技能等に挑戦するだけでなく、向上することの楽しさや喜びを味わい、学校生活に豊かさをもたらすようにすることをねらいとして実施する。

ウ その他

- ① 一人1台のタブレットを活用した教育効果の高い教育方法、評価の研究を進める。
- ② 全教育活動の中でタブレット端末の活用を広げ、その可能性の拡大を図る。

(4) 学校運営にかかわること

ア 教職員が校長の示す方針に従い一致協力して教育活動に取り組む。

(ア) 主幹教諭、主任教諭、学年主任、その他の主任は、組織目標の達成のためにリーダーシップを発揮する。

(イ) 報告、連絡、相談、記録を欠かさずに、全教職員が協力し合う体制を確立する。

(ウ) 生徒の個人情報を取り扱っていることを重く捉え、危機意識を常に高くもつ。

イ 各分掌の役割と目標を明確にし、学校経営方針の具現化、具体化に努める。

(ア) 校務運営や教育内容・方法の改善について、それぞれの分掌において組織的に取り組む。

(イ) 主幹会・企画調整会議を通して、主幹教諭の指示・指導の下、主任教諭・主任がリーダーシップを発揮し、組織の効率化と活性化を図る。

ウ 学年経営と学級経営の充実を図る。

(ア) 学校経営方針に基づいた学年経営を実践し、学年体制で共通理解、共通実践を図り、学年主任はすべての学級が充実するよう支援する。

(イ) 学級担任は学校経営方針、学年経営方針に基づいた学級経営方針を作成し、副担任等と協力して、一人一人の生徒が生活しやすい環境づくりに努める。

エ 青少協、学校評議員会等、地域との連携を図り、開かれた学校づくりを目指す。

(ア) 地域が本校に寄せる期待に応えるべく、その実践評価を積極的に公開し、地域に開かれ、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(イ) 学校評議員会や地域の意見を取り入れて、学校の改善を進めるとともに、保護者等に対して学校運営や教育内容、指導方法等に関する評価・アンケートを実施し、常に改善を進める。

(ウ) 学校評議員会、学校公開、学校だより・学年だよりの配布、ホームページ、道徳授業地区公開講座などを通して学校の教育内容を積極的に公開する。